

溺れておいで

館野まひろ

- 25 空蟬や年子の姉の赤リップ
 24 あたらしき街はパンの香夏深し
 23 筆箱に飼ふだんごむし夏の雲
 22 蓮の葉のうへはちひさき真昼のみづ
 21 おだいじにしてね虹見て帰つてね
 20 水筒の麦茶競輪場の朝
 19 おおきなうちは釦がぜんぶちがふ服
 18 朝焼けを背のない椅子のふあんてい
 17 建て替へのビルの向うの灼かれたる
 16 お祭りの境界をでてさわがしい
 15 体温計はE r r o rトマトにつまやうじ
 14 助手席のコロッケパンや秋高し
 13 深錆に似て銀漢の遠きかな
 12 ときどきはふれ合つてゐる曼殊沙華
 11 月代のテトラポットの墓場かな
 10 無花果のいづれも沼を向いてゐる
 9 薬局の人を誘ふや芋煮会
 8 秋日和まあるく切りしベルマーク
 7 はつ雪や印鑑をゆつくり拭ふ
 6 まつしろの地球儀を買ふ冬の蝶
 5 羊水や無垢な細胞なる小春
 4 昼過ぎの冬芽古本屋のるるぶ
 3 人知れず鯨の腹を裂く十指
 2 歯ブラシの影赤くある聖夜かな
 1 冬蝶や画廊に父を忘れゐる
- 26 芽キャベツの煩惱のごと増えにけり
 27 ぜいたくに使ふ形容詞や時雨
 28 うららかや新しい靴踏まれをり
 29 カフェインをからだにいられて夜の梅
 30 花菜漬いづれふるさとなる街
 31 三月の真昼の夢に象の指
 32 家族ごっこしてたんぽぽ吸つてみな
 33 青空へ指輪抜きたる雪間かな
 34 くつしたをはいて寝るとき亀が鳴く
 35 鍋ずつと中火の店の菜飯かな
 36 春の風邪これも小林製菓か
 37 水銀とろとろなんにもできなくて蝶々
 38 正解はチュールリップです再履修
 39 星涼し銀歯をだいなしにみかく
 40 むりしすぎないでねビールこぼしてね
 41 踏みはずす裸足よあまい粉菓
 42 バス停に蟻のめぐりのとどこほる
 43 ほか弁やW i - F i弱き梅雨の夜
 44 遺言は庭の杏子に始まりて
 45 梅雨空や銀の花瓶にふれてゐる
 46 エーデルワイス手鏡を折つてしまふ
 47 ぬふぬふと酵母湧きぬる残暑かな
 48 星になるための星くづ空蟬は
 49 泳いでおいでうまく溺れておいで
 50 六法の誤字黒々として真夏